

# 平成27年度 第10回（震災後第62回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「陸前高田市の未来に向けて、健康総合計画確認の最後のチャンス！

（市健康総合計画にかかる未来図会議パブリックコメント）」

日時：平成28年1月22日（金）13：30～15：30

場所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参加：31名 28団体

資料：下記にアップ

<http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakatakaigi.html>

## 1. 挨拶

伊藤健康推進課長

健康推進課では今年度、健康増進計画、母子保健計画、食育推進計画の策定を進めており、現在、市のホームページを通してパブリックコメントを実施している。分厚い素案を配ったが、本日の会議は未来図会議パブコメ版の会議を企画している。よろしくお願ひしたい。

## 2. 報告・協議内容

- (1) 健康総合計画 はまって かだって つながって ～みんなで輝く陸前高田～  
健康りくぜんたかた 21 プラン（第2次）及び母子保健計画の概要について  
・陸前高田市 健康推進課 課長補佐 尾形良一
- (2) 食育推進基本計画の概要について  
・陸前高田市 健康推進課 栄養士
- (3) 健康総合計画における地区別計画の概要について  
・陸前高田市 健康推進課 保健師
- (4) 健康総合計画、母子保健計画、食育推進基本計画が目指すこと  
・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也
- (5) 意見交換（未来図会議パブリックコメント）

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

未来図会議の中で、この計画づくりにたくさんの意見をいただき、素案に明記された。これをもとにこれからの3年、4年、5年と市が進んでいく大切な内容となっている。

- (1) 健康総合計画 はまって かだって つながって  
～みんなで輝く陸前高田～ 概要について

(陸前高田市 健康推進課 課長補佐 尾形良一)

1 ページには、計画に関する基本的事項と健康総合計画(案)策定の経緯がある。陸前高田市も平成 24 年度までの 10 年計画で、健康りくぜんたかた 21 プランを策定した。1 ページの中段は、陸前高田市は東日本大震災において甚大な被害を受けたため、健康りくぜんたかた 21 プランの更新ができなくなったが、延長で現在の健康保健行政を進めており、この計画を進める中で、震災復興計画や震災復興実施計画やノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりアクションプラン等が打ち出され、それを踏まえての健康総合計画(案)となっている。

18 ページ。この健康総合計画(案)は「健康寿命の延伸」と「個別の疾病予防」の達成のため、「はまって かだって つながって ～みんなで輝く陸前高田～」を目指して健康づくりを進めていく。このキャッチフレーズは、未来図会議で検討して生み出された、すてきな言葉である。

25 ページへ進む。全体目標を 2 点挙げている。「誰もが、ずーっと(一生涯)、幸せと生きがいを感じられるまちづくり」と「世代間の「はまかだ」が進むまちづくり」。これを受けて、基本的な方向を 6 つの方向で取り組んでいく。「社会参加で元気づくり」、「お互い様で健康づくり」、「はまってけらいん かだってけらいん」、「誰もが健康になるまちづくり」、「子どもを産み育てやすい 子どもが元気なまちづくり」、「住民と創る医療」。この全体目標の 2 点と、6 つの基本的な方向ともに、未来図会議の皆様で議論を重ねてきた分野である。

続いて 3 ページの図 4。5 つ目の方向「子どもを産み育てやすい、子どもが元気なまちづくり」に内包された形で母子保健計画がある。81 ページになるが、母子関係の計画を記載している。子ども・子育ての関連は市でもまち・ひと・しごと総合戦略の重点施策としている。

## (2) 食育推進基本計画の概要について

(陸前高田市 健康推進課 永山栄養士)

この食育推進計画は初年度となるが、実は震災の当日、平成 23 年 3 月 11 日に食育推進計画として決定する予定であった。当時の担当栄養士や庁内関係部署で考えた素案をもとに、今の情報を入れつつ新しくしている。

食育基本計画の基本方針は「全ての市民が生涯にわたって健全な食生活を営み、心身ともに健康で生き生きと暮らす」としており、スローガンは「はまって かだって みんなで食べっぺし おらほの健康りくぜんたかた」である。

109 ページ。先ほどのスローガンを実現していくため 3 本の柱で取り組む。1 本目「全てのライフステージに応じた食育の推進」では、細かな目標を掲げている。2 本目は 122 ページの「地域の特性や食文化を生かした食育の推進」。127 ページに「地域の人やつながりに根差した食育の推進」ということで、3 本目の柱がある。

## (3) 健康総合計画における地区別計画の概要について

(陸前高田市 健康推進課 保健師)

横田町：佐藤保健師

68 ページ。メタボリックシンドロームと脂質異常症などの割合が高いため、健康教室を開催し、生活習慣病予防や運動、栄養、飲酒の課題に取り組む必要がある。

対策として（１）生活習慣病予防の健康教室を開催する。（２）食生活改善推進員や各地区婦人部の方々と協力して栄養教室の開催を考えている。（３）介護予防分野と連携を図り、地域の中で体を動かす機会をつくるためには何が必要かを考えていきたい（４）結びつきが強くまとまりがある一方で、仮設住民と地元住民との交流は余りないため、交流を通じて生活習慣病予防の啓発活動や運動習慣の形成等が必要と考える。

#### **米崎町：佐藤保健師**

75、76 ページ。メタボリックシンドロームや脂質異常症の可能性が高い人が多いことから、生活習慣病予防の対策が必要である。また、新しい住民が多く移り住んでいるため地域住民のネットワークづくりが必要と考える。これらを踏まえた対策については、健康教室等を通じて積極的に情報発信を行いたい。

（２）時間や周知方法の検討を行い、全ての住民が参加しやすい健康教室を目指したい。地元住民、仮設住宅の住民、他地域から自力再建で転居してきた住民同士の交流が高まるような工夫を盛り込み、地域づくりと健康づくりを同時に促進したい。

#### **矢作町：高橋保健師**

66 ページ。ヘモグロビンA1cがC判定の割合が高い地域であることから、地域で糖尿病に関する重症化予防のための知識普及を行いたい。（３）矢作町はつながりの強い地域であるため、現状をこのまま伝えて一緒に対策を考えたい。（４）矢作町は3地区のコミュニティに分かれており、活発な活動が行われている。下矢作地区は若い世代が多いことから、一緒に地域の活動を促進していきたい。二又地区は食生活改善員や保健推進員の活動を生かして進んでいきたい。生出地区は地域の結束力の強さを生かし、協働で進めていきたい。

#### **広田町：高橋保健師**

80 ページ。一番の生活習慣病予防の知識の普及として、広田町はとても肥満傾向にあり、BMIとヘモグロビンA1cの値が高い方が多い。飲酒量が多い地域でもあることから、アルコールを飲む方や女性の運動不足について知識の普及を行いたい。（２）メタボリックシンドロームを中心に、食改さんや婦人部と協力して知識の普及を図りたい。（３）運動習慣の形成は、肥満が多く運動習慣がないことから、そちらも進めていきたい。（４）自然と行われてきた地域づくりを生かし、国保広田診療所やコミセンとあわせて健康づくりを行っていきたい。

#### **竹駒町：村上保健師**

70 ページ。1番は糖尿病予備群が多いため、糖尿病の知識や予防方法等をテーマとした健康教室を行っていかうと考えている（２）多量飲酒、喫煙習慣への注意が必要な方が多い地域のため、適量飲酒と禁煙の普及啓発を行っていきたい（３）脳出血の医療費割合が高くなっていることから、脳卒中予防の普及啓発を考えている（４）食生活改善推進員やス

ーパー等と連携した普及啓発活動を継続していく。

#### 高田町：村上保健師

74 ページ。対策の1番、市内全体としてヘモグロビンA1cが高い状況であるため、脂質や糖に関する知識や生活習慣病予防をテーマとした健康教室を開催予定である。

(2) 食生活の改善では、コミュニティホールの調理室を有効活用した取り組みを行いたい (3) 特定健診の受診率が市内で最も低い地域であることから、受診勧奨の取り組みを行いたい。商業地の建設が予定されているため、健康づくりを進めていく上でも重要な地区になることが予想されるが、今は地道に地域での取り組みを重ねて今後に備えたい。

#### 気仙町：千葉保健師

72 ページ。気仙町は今泉地区と長部地区それぞれの歴史や文化があるため、それぞれに寄り添った健康づくりを考えていく必要がある。その上で(1)の生活習慣病予防に関する知識の普及等については、地域住民とともに情報共有を行い考えていきたい。

#### 小友町：千葉保健師

78 ページ。(3)の世帯、人口増加を強みとした取り組みを挙げているが、自力再建などで転入してきた方が多く、震災前の世帯数を上回る地域も出ていることから、人と人とのつながりを改めて形成していく必要がある。生活習慣病予防に関する知識の普及や健康教室を開催することで、地域づくりも進めていきたいと思う。

#### (4) 健康総合計画、母子保健計画、食育推進基本計画が目指すこと

(陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏)

この計画の目指す姿は「はまって かだって つながって ～みんなで輝く陸前高田～」である。今回、なぜ未来図会議にパブリックコメントを求めているのか。保健師、栄養士の発表も活動も地域に根差したものになっているが、実は私たちが同じようなことをやっている、一緒にやれるというアイデアをご指摘いただきたい。

この計画をどう評価するのか。国は計画を出すが実際の事業は何もやらないが、評価だけする。市町村も評価と言えど事業評価になり、目先の結果に目が行ってしまう。保健師、栄養士の皆さんも勉強して、そうではない方向に行こうとしているが、事業をやらなければいけないとつい追われてしまうこともあるため、「もっと大きな目で見ていいのではないか」という面で支援をいただきたい。実際、ここが繋がらないことがわかっているので、今回は数値目標に重きを置かない計画をつくりたい。

#### (5) 意見交換（未来図会議パブリックコメント）

参加者：

例えば 65、66 ページの血糖値コントロールのところにはHbA1cと書いてあるが、何を言っているのだろうと思った。枠外に注意書きがあるとわかりやすい。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

これは 59 ページに説明が出ているが、このようなことがわかりやすい体裁を考えたい。

**参加者：**

これはカラーで印刷されているが、白黒で印刷すると図がわからなくなる。私は老眼が始まっており、例えば 4 ページの計画期間の流れは見づらいので工夫してほしい。言葉の表現として、3 ページの障がいの「がい」は平仮名を使っているが、26 ページでは、「害」となっているので統一したほうが良いと思う。先ほど用語の話が出たが、巻末に用語集を載せて索引をつけて、そこを見れば良いと思った。

**参加者：**

昨日、子ども関連会議に参加したが、その中で虫歯と肥満児の話が出ていた。虫歯の有病者割合だけではなく、1 人当たり何本なのかなどの比較があってもいいのではないか。食育について、生活習慣を大人になってから変えるのはとても難しいので、ぜひ子供の対策と連携をとって進めていけたらいいと思う。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

高田病院も高校に入って食教育を行っているが、そのようなことが盛り込まれているかどうかということも確認する必要があると感じた。

**参加者：**

3 ページの母子保健計画の図について、お母さんたちからパブリックコメントをいただくと思っているが、この図がわかりづらい。どのような経緯でつくられたのか。

**尾形健康推進課長補佐：**

「子ども・子育て支援事業計画」は、純粋に子どもと養護者に視点が置かれた計画となっている。母子保健計画では、子どもに係る全ての人が「子育て・子育ち」を支援する計画となっており、その上位となる 6 つの方向の「5 子どもを産み育てやすい、子どもが元気なまちづくり」が地域や直接子育てしていない方も、皆で一緒に子育て・子育ちを応援していこう、という意味を記した図である。

**参加者：**

この図を見ると、お母さんが子育てをするというイメージになる。ノーマライゼーションというのであれば、地域全体で子供を育てるというイメージをつくったほうが良いと感じた。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

ぜひお母さんたちに、提案をしていただけるとありがたい。今言っていたことはそ

のとおりなので期待している。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

それぞれの専門のところや地域の視点からの意見でもお願いしたい。

**東八幡平病院 及川 忠人先生：**

母子保健というような用語は、今までのかたい日本制度を反映しているので、和らげるような工夫が必要だと思う。今の意見はとても大事である。

**参加者：**

ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりと、母子保健計画というノーマライゼーションではない言葉が並んでいることに違和感がある。父子家庭もふえている中で、これを見た瞬間に父子家庭のお父さんは見る気がなくなるのではないか。

**市：増田氏**

確かに母子保健計画という言葉自体が古い名前になっている。もう一歩先に進んだネーミングに変えていきたいという思いもあるので、ぜひ皆さんの知恵をいただきたい。

**参加者：**

ありきたりな言葉だが、「子育て家庭」というのはどうか。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

親に育てられていない子もいる。子育ての計画は別途あるため、子育てという言葉をさらに包含するようなものはどうか。

**参加者：**

ほかの市町村では、「子どもすくすく計画」という言い方をしているところもある。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

7月の第4回未来図会議で「子どもを産み育てやすい 子どもが元気なまちづくり」のキャッチコピー案として言葉が出た。「子供は地域の宝」「生まれてきてよかったまち計画」「子供の夢を育むまち計画」「KKTきらきらたかた計画」などがあった。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

「子どもきらりん計画」。みんなで輝く陸前高田ということで、「子どもきらきら計画」。

**参加者：**

産み育てる世代が暮らしやすい地域の中に網羅されている計画と考えると、産むのは誰な

のかと思うが、母というのは必ずしもお母さんではなく、親という意味でもり、子育てにかかわる人という意味があるということを、どこかに入れてはどうか。

**参加者：**

自分はまだ独身で子供もいないが、独身男性でも子供たちに目が行くような計画は何かと考えたとき、結局、みんなの子供として見られるようにすればいいのだと思う。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

「みんなの子ども計画」「健やか子ども計画」。これが1つ決まるだけで、きょうのディスカッションの意味がある。

**参加者：**

子供にスポットを当てたネーミングがいい。「子どもきらきら」とか、「健やか」など。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

「健やか子ども計画」。いいという意見が出ているが、いかがか。

**参加者：**

「地域の宝・子ども計画」。

**参加者：**

沖縄の離島では島民全員が子供を育てて出生率が上がっている。産んでも安心という気持ちがあるのでないか。「みんなの子ども計画」というのはいいと思いながら話を聞いていた。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

「みんなの子ども計画」はどうか。

**参加者：**

「みんなの」の「の」をどうにかできないか。

**参加者：**

なぜ自分の子供が、みんなの子供なんだとってしまうようでは、だめだと思う。

**参加者：**

みんなで「育てる」を「育む」という形はどうか。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

「みんなの子ども計画」はいかがか。これができただけで、きょうはとてもいいと思う。

**参加者：**

陸前高田市は虫歯と肥満、生活習慣病ということも言っているので、トータルで陸前高田市が虫歯ゼロを目指すという目標を決めたほうがいいのではないかと感じた。地域と赤ちゃん、妊婦、高齢者まで取り組む第1の目標として進めていくのはどうかと感じた。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

今の発言はありがたい。優先順位を何にするのか。これは3年、5年というスパンで見たときに全部できるわけではないので、目標を1つにするとインパクトがあっている。

**参加者：**

虫歯を減らすと肥満は少なくなり、大人の糖尿病がよくなる。虫歯ゼロというのは子供だけではなく、社会全体で考えてもよい計画である。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

では、虫歯ゼロ。8020も確実に行われるので平均寿命も間違いなく、さらに延びる。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

時間がなくて申し訳ないが、ここまでの未来図会議でのパブリックコメントとしたい。

**3 その他連絡・アナウンス**

**旭神経内科リハビリテーション病院院長 旭 俊臣氏：**

昨日、「高齢者のうつ病と認知症への対応」ということで講演を行った。今後認知症の方がふえていく中で、鬱病の方もふえていくと思う。その予防となる話をした。また昨夜は、この地域でもひきこもりの高齢者がふえてきているのではないかとということで、チームけせんの和の方々へ講演を行った。認知症や鬱病、心のケアも続けていきたい。

**東八幡平病院 及川忠人先生：**

昨日、旭先生と「気仙地区における多職種連携」という講演をした。被災地の高田一中での活動、心のケア支援活動に参加したときからの振り返り、自分で支援活動をする中で、自分も支援されているような思いを感じながら感想を述べた。

**復興支援連絡会：**

「おはようさん」という会報を毎月出しているが、第7号ができた。新年の挨拶とはまかだ教室を行っている中間支援の予定を掲載している。

さくらっ娘隊という、愛知県の常滑で陶芸をしている女流作家7人が、2012年7月から陸前高田で、土に触れながらのお地蔵さんづくりを始めた。2013年には釜石や宮古まで足を延ばして行っているが、その4年間の活動報告ができた。彼女たちは、ことしも来るつもりで



用意しているので声かけをしていただきたい。

**市：**

岩手日報の資料を見ていただきたい。陸前高田市の保健推進員有志が集まり、石木先生監修のもと脳卒中予防と口腔ケアの紙芝居づくりを行っている。どなたでも加入できるので、興味のある方はぜひ協力・賛同していただきたい。また、15分～20分くらいの紙芝居になる予定だが、披露してほしいという会場があったら、ぜひ声をかけていただきたい。

**市：**

岩手県立大船渡病院小児科の森山先生と、市内の吉田歯科医院副院長の吉田先生が発起人となりB l o o m i n g T A K A T Aを発足した。これは、子供たちの健康・子育て支援を行っているというもの。子供にかかわる団体だけでなく、地域に住んでいる皆さんにも加入していただきたい。健康推進課で入会の申し込みを行っている。

**市：**

「はまってけらいん かだつてけらいん運動」の一環として、『高田診療所閉所メモリアル講演』を2月17日に行う。震災後5年を経過したからこそ見える病気もある。そのような気づきの時間にしたい。ぜひ時間の都合をつけて、お集まりいただきたい。もう一つ、第3回健康づくり推進協議会を2月17日にコミュニティホールで行う。健康総合計画を最終的に諮る場所となる。ことらもぜひ参加いただけるようお願いしたい。

**市：**

2月10日に長野県諏訪中央病院の名誉院長 鎌田先生が陸前高田にいらっしゃる。午後3時～4時まで下和野公営住宅の集会室で講演を行い、その後、中田公営住宅の集会室で夜7時～8時まで、劇団ばば☆の公演もある。ぜひ来ていただきたい。

**旭神経内科リハビリテーション病院院長 旭 俊臣氏：**

篠原さんという先生は、千葉市内の小中学校で命の大切さを教える講演を行っている。長い目で見て、命を大切に教育を学校教育に取り込まなければ、今の子供たちも精神的に悲惨な状況になりつつあることが見え始めたので、次回、改めて案内したい。

**陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

今回の計画でも「ほだし」「きずな」があることが大切である。『健康づくり』という雑誌の2月号でソーシャル・キャピタルについて書いている。ぜひ読んでいただきたい。

**◇次回：平成28年2月19日（金）**

メインテーマ：他人ごと意識の解消～今ある差別・虐待とこれからの配慮～

会場：市役所第4号棟第6会議室